

水から水へ 人から人へ 未来へつなく浄化槽

上高地河童橋

平成22年度第8回  
全国環境連  
全国大会

2010**10.21** [Thu] ホテルメトロポリタン長野【長野市南石堂町1346番地 TEL026-291-7003】

主催 全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会  
後援 環境省／長野県／長野市／長野県市長会／長野県町村会  
協賛 財団法人日本環境整備教育センター 社団法人長野県浄化槽協会  
社団法人全国浄化槽団体連合会 長野県浄化槽推進協議会 全国浄化槽推進市町村協議会

## 第8回全国環境連全国大会の 開催にあたって

兎追ひし かの山 小鮒(こぶな)釣りし かの川 夢は今もめぐりて 忘れがたき 故郷(ふるさと)  
如何(いか)にいます父母 恙(つつが)なしや 友がき 雨に風に つけても 思ひ出(い)づる 故郷  
志(こころざし)を はたして いつの日にか 帰らん 山は青き 故郷 水は清き 故郷

童謡「故郷」は1914年(大正3年)尋常小学唱歌の六年用で発表されました。作詞した高野辰之は1876年(明治9年生)、長野県下水内郡豊田村、今の中野市永江の出身で、「かの山」は生家の裏山「大持山」、「かの川」は村内を流れる「斑(尾)川」といわれています。(ウィキペディア他)

「うさぎ美味し?」と不可思議に思いながら歌った幼少の頃、斑尾・飯綱山の夕日を思い浮かべ、涙腺が緩んだ長野オリンピックのフィナーレでの大合唱…ここにご参会いただいた皆様も、それぞれ「忘れがたき故郷」があることと存じます。本日は「ふるさと信州」に、環境省をはじめ、国会議員の先生方、長野県・長野市など多くの議会や行政そして業界関係者・団体など多数の方々のご臨席のもと、全国各地から業を同じくする仲間が一同に会し、盛大に大会を開催できますことは意義深く大きな喜びであります。

さて、どこの国も経験したことのない高齢化社会の先頭を走る日本は、全世界の2割が高齢者世帯となり、国立社会保障・人口問題研究所の推計(2009年12月)によると、65歳以上の高齢者世帯数は884万世帯です。そのうち465万もの単独世帯(2010年)が2030年には717万世帯に、また75歳以上の高齢者世帯352万のうち250万の単独世帯が2030年には1.7倍の429万世帯になるとしています。長野県でも6万7千の65歳以上の単独世帯(2010年)があり、20年後には10万3千世帯となり、75歳以上の後期高齢者4万の独居世帯が1.6倍の6万4千になると推計しています。

最近のご高齢老人の痛ましいニュースを聞くにつけ、信じられない思いと、本当に日本は長寿社会なのかと懐疑的になってしまいます。独居世帯数は若干加減しても、全国では実に横浜市以上の人口に、長野県は姨捨山で有名な千曲市規模が75歳以上の独居老人となり、20年後の日本は「デフレを克服した長寿福祉国」には程遠いシルバーシティ、映画の「ダークシティ」のような姿になってしまう可能性すらあります。

トーマス・ジェファソン第三代米大統領は「子孫が払う借金は大掛かりな詐欺と同じだ」と喝破したといえます。しかし、すでに次代への借金繰越は避けられず、せめて孫、ひ孫の代へ負の遺産を残さないことが私たちの責務となりました。

かつて小鮒を釣った斑尾川が流れる「かの山」の麓には下水道と3つの農集排施設が整備され、65歳以上の高齢化率が35%(中野市:2035年人口推計高齢化率37.7%)を超える20年後、「忘れがたき故郷」の夢は如何にめぐるでしょうか。

私たち組合員は、し尿・浄化槽清掃の現場の仕事を通じ、住民の方々のさまざまな思い、地域の現状の姿を毎日肌で感じ、経験しています。「不易流行」という言葉のとおり、持続可能な社会には時代とともに代るものと、歴史・経験を通じて知恵となった、代えてはならない基本原則ともいえるべきものがあります。

この第8回全国大会が持続可能な生活排水処理計画への見直しとともに環境先進国のデザイン・戦略の共有と実践の第一歩になることを祈念しております。

現在、長野県は「信州ディスプレイーションキャンペーン」開催中であります。「青き山と清き水」、秋の味覚を十分堪能され、「思ひ出づる信州」をお持ち帰りいただければ幸いです。精一杯おもてなしの心で接することをお約束し、ご挨拶いたします。

平成22年10月21日

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会  
会長 鳥越 澄夫

長野県環境整備事業協同組合  
理事長 尾沼 好博

# 祝 辞



自民党選挙対策局長  
環境整備議員連盟会長

Kawamura Takeo

衆議院議員 河村 建夫

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第8回全国大会のご盛會を心よりお慶び申し上げます。日頃から全国環境連の皆様は一般廃棄物の適正な処理に努め、わが国の良質な水循環の確保と生活環境の保全に多大な尽力を賜っております。本年はまた「水から水へ 人から人へ 未来へつなぐ浄化槽」という誠に時宜を得たテーマを掲げ、緑の地球環境を次世代にも残そうという強い意欲をひしひしと感じます。わが自民党が「もったいない」の心を生かし、先進的循環型社会の実現を目指して廃棄物の発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)の「3R」推進に鋭意取り組んでおりますこととまさに軌を一にするものです。

私共自民党は昨年9月の衆院総選挙で残念ながら敗北を喫し、政権交代を余儀なくされました。しかし「コンクリートから人へ」を合い言葉に公共事業を一方的に大幅削減し、財源手当てもないままに子ども手当てなどばらまき政策を公約する民主党政権の姿勢が長期にわたる支持を得られるはずもありません。今夏の参院選では真剣に反省し、日夜、出直しの改革に全力投球する我が自民党に有権者は再び温かい支援の手を差し伸べてくれました。しかし、真の信頼回復にはなお道半ばであることに思いを致し、これからも一層厳しく身を律し、改革へは努力を怠らぬ決意です。皆様方と手を取り合って難局を乗り切る覚悟ですのでよろしくお願い申し上げます。

貴業界が下水道と競合し、昨今、とりわけ厳しい経営環境にあることは私も存じております。しかし、これまで永年、培ってこられた技術のさらなる革新、開発によって地域住民の揺るぎなき信頼を勝ち得られることを確信致しております。建設コストが安く、工事期間は短く、下水道並みの水処理能力を持つ合併処理浄化槽は既にメリットにおいて、下水道を凌駕しています。

さらに地震大国・日本にあつて浄化槽が圧倒的に地震に強い、という利点は何物にもかえがたいと存じます。新潟県中越地震の折も、下水管があちこちで損傷し、生活排水の処理に大変なご苦労があったと伺っています。浄化槽の場合、そんな心配は無用ということですからこれに優る安心はありません。

私共自民党は先の参院選での政権公約で戦後の開発推進の過程で失われた鎮守の森や里山の復活など豊かな自然環境を取り戻していく壮大な仕組みづくりに挑戦することを有権者の皆様方に約束致しました。それはコンパクトで人や環境に優しい街づくりなくしては実現し難いものです。まさに全国環境連に集う皆様のご尽力抜きでは日の目をみない公約です。皆様方の一層の奮励、ご協力をお願いする次第です。

終わりに、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の今後益々のご発展と会員の皆様、ご家族のご健勝を心より祈念してお祝いのご挨拶と致します。

# 祝 辞



環境省大臣官房  
廃棄物・リサイクル対策部長

Ito Tetsuo

## 伊藤 哲夫

第8回全国環境連全国大会の開催を、心よりお慶び申し上げます。

また、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の皆様には、平素から一般廃棄物の処理及び浄化槽の清掃など生活環境の保全のために御尽力されるとともに、廃棄物・リサイクル行政の推進に格段の御協力を頂き厚く御礼申し上げます。

本大会は、「水から水へ 人から人へ 未来へつなぐ浄化槽」をテーマとして3R活動を積極的に推進し循環型社会づくりを目指すものであり、誠に意義深いものと考えます。

さて、現在の我が国の経済社会は、歴史的に見ても大変難しく厳しい状況が続いております。加えて、国際的な資源価格の大きな変動もあって、廃棄物・リサイクルを取り巻く状況は大きく変化しており、行政としてもこうした変化に迅速に対処していかなければなりません。資源・エネルギー小国である我が国は、廃棄物・リサイクル技術をはじめとする優れた環境技術を積極的に活用しながら「もったいない」に象徴される環境にやさしい伝統文化を再認識して、低炭素で循環型の社会を築いていくことが極めて重要であります。

そうした中、水を巡る関心が改めて高まっており、健全な水循環や水環境の保全が重要な課題であります。浄化槽は污水处理施設の一つとして地域の水環境の保全に大きく貢献しているところです。

現在、我が国の污水处理人口普及率は85%を超える水準ですが、人口が分散している地域などを中心に未だに二千万人弱の方々が污水处理施設の整備を必要としています。また、水環境を改善するためには単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換や浄化槽の受検率の向上が大きな課題であります。

環境省では、平成22年度予算より、省エネタイプの浄化槽設備について一定の要件を満たす市町村整備推進事業について、助成率を1/2に引き上げております。また、単独処理浄化槽の撤去費にかかる助成要件も緩和しており、浄化槽整備がより推進するよう取り組んでいるところです。また、浄化槽整備区域の積極的設定に向け、一部自治体をモデルケースとして、その取り組みを進めているところです。

自然の水循環を活かしながら污水处理を行う浄化槽は、今後、効率的な污水处理システムが求められる中で重要な役割を果たすこととなる一方、地方主権の流れの中で自治体や地域住民から浄化槽に対する信頼を高めることが益々重要となることから、皆様方が果たす役割は、今後、より一層重要になって参ります。

環境省としても、廃棄物の適性処理と浄化槽の整備・管理のための取り組みを一層推進してまいりますので、関係各位の更なる御協力、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、一般廃棄物及び浄化槽事業の分野で貴連合会並びに会員の皆様の今後益々の御発展と御健勝を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

# 祝 辞



長野県知事

Abe Shuichi

阿部 守一

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の第8回全国大会が盛会に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、全国各地から長野県にお越しになった皆様を心より歓迎いたします。

貴連合会会員の皆様には、日頃、浄化槽の維持管理を通じて、生活環境の向上と水環境の保全に多大な貢献をいただいておりますことに深く敬意を表します。

先に公表された平成21年度末の下水道、農業集落排水施設、浄化槽等を合わせた汚水処理人口普及状況によりますと、全国の汚水処理人口は1億890万人となり、総人口に対する割合でみた汚水処理人口普及率は85.7%と、着実に向上しています。

長野県では、平成2年に「下水道等整備構想エリアマップ」を策定して以来、生活排水施設を整備してきた結果、平成21年度末の県内普及率が94.5%に達しており、大多数の県民が利用できる状況になってまいりました。

このように、生活排水対策は、「施設整備の時代」から「持続的な管理経営の時代」を迎えましたが、一方で、技術者の不足、汚泥の利活用への対応、処理施設の老朽化・改築更新、各事業の経営的な問題などの課題が発生しております。

こうした課題に対応するため、長野県では、県と市町村が一体となり、新たな生活排水対策のビジョンである『長野県「水循環・資源循環のみち2010」構想』を策定しました。構想では、未普及地域の早期解消、処理施設の適正な維持管理、汚泥の有効利活用、長期的な計画に基づく健全経営に取り組むこととしております。

浄化槽につきましては、今後、未普及地域、特に中山間地域における汚水処理施設の主役としてますます重要になってくるとの認識のもと、引き続き整備を促進するとともに、より適切に維持管理されるよう、貴会員の皆様方をはじめとする関係の方々と連携して取り組んでまいります。

山々に囲まれ、清らかな水を育む信州も秋真っ直中、美しい紅葉と旬の食材を御堪能いただくには最高の季節です。今年は、JRグループとタイアップした全国キャンペーン「信州デスティネーションキャンペーン」を10月1日から12月末日まで実施しています。キャッチフレーズは、「未知を歩こう。信州」。是非、お時間の許す限り少し足を延ばしていただき、山歩き、まちなか歩きを通して、未だ知られていない、新しい信州の魅力を存分に味わっていただければ幸いです。

最後に、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会のますますの御発展と、会員の皆様の御健勝と御活躍を祈念いたします。

# 祝 辞



長野市長

Washizawa Shoichi

## 鷺澤 正一

平成22年度第8回全国環境連全国大会が、日本全国各地から大勢の会員の皆様をお迎えし、長野市において盛大に開催されますことをお祝い申し上げますとともに38万市民を代表して心から歓迎申し上げます。

会員の皆様におかれましては、日頃から適正な廃棄物処理を通じて河川の水環境の改善や快適な生活環境の向上に多大なご貢献をいただいておりますことに、深く敬意を表する次第でございます。

さて、長野市におきましては、身近な環境から地球環境まで今日の環境問題に対応し、今後の環境行政を総合的かつ計画的に進めるため「長野市環境基本条例」を制定し、また、市民・事業者・行政の協働による行動指針と施策を示した「長野市環境基本計画」に基づき、良好な環境の保全と創造の実現を目指して環境問題への取り組みを進めております。

このような中で、合併浄化槽につきましては、平坦地における公共下水道や農業集落地域における農業集落排水等の整備ができない地域において、し尿と生活雑排水を適正に処理することができる生活排水対策に有効な施設として捉え、来年度から市が設置を行う戸別浄化槽の設置対象区域を市内全域に拡大し、その促進に努めるものであります。

水は、人々に潤いと豊かさを与え、快適な環境づくりには欠かせない重要な要素の一つです。良好な水環境の実現は、全ての地域に於いて、それぞれの地域の特性に合った浄化槽等の排水処理施設が整って、初めて得られるものですので、今後とも一層の普及促進に皆様のご協力をお願い申し上げます。

長野市は、戸隠高原や飯綱高原など豊かな自然環境に恵まれるなか、善光寺の門前町として発展してきました。市内には真田十万石の城下町松代、川中島古戦場など歴史・文化遺産も多く存在しています。

農産物では、秋の収穫期を迎えているりんごや、ぶどうなどの果樹、そばやおやきに代表される郷土料理もございます。お越しいただきましたこの機会に、長野の魅力に触れていただければ幸いです。

結びに、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会のご発展と、本日ご参集の皆様の今後ますますのご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げまして、祝辞といたします。

# 祝 辞



財団法人日本環境整備教育センター 理事長

Iriyama Fumio

## 入山 文郎

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第8回全国大会が、「水から水へ 人から人へ 未来へつなぐ浄化槽」をテーマに、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、優良役員・従業員表彰の栄に浴された方々に心よりお慶び申し上げます。

貴連合会会員の皆様が、一般廃棄物の適正処理と循環型社会の実現を目指し、わが国の良質な水環境の確保と公衆衛生の向上に大きく貢献しておられますことに、深く敬意を表する次第です。

また、私ども日本環境整備教育センターの事業推進に対し、常日頃より格別なるご協力、ご支援を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。さらには、一昨日、昨日と私ども主催の全国浄化槽技術研究集会在同じ長野で開催され、多くの皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

さて、「環境の世紀」「水の世紀」と言われている21世紀ですが、環境と衛生の問題については、世界的に関心が寄せられ、諸問題の解決に向けた取り組みの機運が高まっております。浄化槽は温暖化係数が少なく、地域に根差した資源回収に最適であり、海外からも注目されています。昨年10月、アジア・太平洋地域の衛生分野の国際拠点として浄化槽・し尿処理施設などの整備を支援し、地域の衛生関係機関のネットワークを図る目的で「日本サニテーション・コンソーシアム」が創設されました。日本の優れた技術である浄化槽の普及は、水環境の保全を図る上で、国際的にも広く認識されており、まさしく、浄化槽システムの出番が期待されています。

一方、我が国は少子高齢化社会であるとともに、人口減少の局面を迎えています。中小都市や中山間地域での汚水処理整備事業において、今後ますます加速される人口減少に機能的に対処するには、小回りの利く浄化槽整備は必然であると考えます。そのためにも浄化槽の適正な設置、保守点検、清掃及び法定検査を推進するとともに、汚泥処理についても、その減量化、有効利用を目的とした処理体系の再構築に向け、貴連合会が担われる役割は一層重要になるものと思われまます。

当教育センターは、浄化槽に係る教育研究機関として、今日まで、微力ながら浄化槽事業の推進、向上に努めて参りました。今後も一層の努力をいたす所存ですので、皆様方におかれましても引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会と会員の皆様の今後ますますのご発展、ご活躍を心からご期待申し上げますとともにご参加の皆様方のご健康とご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 祝 辞



社団法人 全国浄化槽団体連合会 会長

Matsushita Tetsuo

## 松下 鉄男

貴連合会「第8回全国大会」の開催を、心からお祝い申し上げます。

7年前、貴連合会は「相互扶助の精神と互いの経営資源の補完」「知性と良心」「自由闊達な建設的議論」「相互の人格と個性の尊重」「民主的運営」等を基本理念として、新たな船出をされました。以来、我が国の健全で恵み豊かな生活環境の確保と、公衆衛生の向上に大きく貢献してこられました。今年も、全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会され、新たに「水から水へ 人から人へ 未来へつなぐ浄化槽」をテーマに、循環型社会づくりを実現するための決意を表明されております。

全世界で「水」問題がクローズアップされている21世紀において、「水資源の確保」は、日本の国家戦略の一つと言うべきもので、また、「環境保全上も健全な水循環を構築するためには、浄化槽の果たす役割が大きい」ことを考えますと、今大会のテーマもまた誠に時宜を得たものと、深く敬意を表するものであります。

さて、私ども全浄連は、昨秋「単独から合併処理浄化槽への転換推進」について、「浄化槽法等の一部改正や行政・予算措置の確保に向けた提案」を内容とする「全浄連提案書」を取り纏めました。今後は、この提案書に基づいて、その実現を国や国会議員各位に強く働きかけてまいりたいと存じます。

今や全国の汚水処理人口普及率は約85%に達しましたが、半面、台所やトイレの生活排水の処理を必要としている人たちが、まだまだ2千万人もおられます。下水道と浄化槽は水環境保全に対して同じ役割を果たしていますが、財政コストの観点から整備すべき区域は異なる筈です。これからの整備区域は中山間地域が主体であることを考えれば、当然として浄化槽整備推進への期待が強まっております。

幸い、政府・行政刷新会議の「事業仕分け」では、「浄化槽と下水道とのコストを比較した上で、施設を整備すべきである」との数多くの意見が出され、浄化槽に対する期待が強くにじみ出たものとなりました。こうした追い風を現実のものとするように、全浄連では今後、以下の4点を強く要望してまいりたいと存じます。

「下水道との共存共栄を図りつつも、経済合理化・効率化の観点で踏まえた浄化槽整備区域の拡大と、これに伴う予算措置」「単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を早急に図るため、法改正とこれに伴う経費は公費負担とする制度の創設等助成制度の抜本的見直しの実施」「浄化槽の維持管理費に対する助成制度の創設」「浄化槽整備事業の助成率の1/3から1/2への拡充」。

末永い日本の繁栄を築くとともに、身近な美しい水環境を守り、これを子や孫の代にしっかりと引継ぐことは私達に課せられた永遠の責務であります。全浄連は、常に大局的な見地に立って、後世に評価される行動をしていくことを肝に銘じながら、その実現に努力してまいっている決意でありますので、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会と会員の皆様の益々のご発展とご活躍を祈念し、お祝いの言葉と致します。





# 大会の目的

我々一般廃棄物処理業者は、市町村の自治事務の代行者として、廃棄物処理事業が開始されたときから今日まで、適正な廃棄物処理を通じて、我が国の良質な水環境の確保及び公衆衛生の向上に寄与してきたところである。

しかし、その傍ら下水道の整備が進む中、業界の取り巻く厳しい経営環境は、年々その度合いを強めている。

そのため「合特法」の趣旨を踏まえた転換業務（補償）の獲得が、今や緊急の課題となっていることはいうまでもない。

我々がこの難局を乗り切るためには、積極的に英知を結集し自らの力で業界の経営基盤の安定を図っていくことが必要である。

今後は絶え間ないイノベーション（技術革新）で、業界の未来は開かれるという信念のもと、創造性を備えた先進的なリサイクル等の技術開発に努めていくことが強く求められている。

その上で、企業の社会的責任（CSR）の視点から業界全体での思い切った意識改革に取り組み、新たな価値観を追求することが必要である。

また、今世紀は水と環境の世紀と言われ、地域住民の安心安全な水循環を確保するため、下水道並みの水処理能力を持ち工期が短期間かつ、経済効率性の優れた浄化槽整備の一層の推進を図るべきである。

本大会は「水から水へ 人から人へ 未来へつなぐ浄化槽」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を積極的に推進し、国・地方及び関係業界が協働して、循環型の社会づくりを目指し実現するための我々の強い決意をここに表明するものである。



# 大会式典

【時 間】13時30分～14時30分 【場 所】3階 浅 間 (受付…12時30分から)

## 式次第

- 一、開会の辞
- 一、物故者に対する黙祷
- 一、大会式辞
- 一、優良役員・従業員表彰
- 一、受賞者代表謝辞
- 一、政府に対する要望決議
- 一、大会スローガン
- 一、大会宣言
- 一、来賓祝辞
- 一、祝電披露
- 一、閉会の辞



鏡池と戸隠山 / 写真提供: (社) 信州・長野県観光協会

次の講演会は、2階の千曲（同時放映2階梓）で14時45分から行います

# 政府に対する要望決議

私達、一般廃棄物処理業者は今日まで、市町村の自治事務の代行者として長年ただひたすらに、廃棄物の適正処理に取組み、我が国の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に重要な役割を果たしてきました。

しかしながら近年、下水道の整備普及による業界の業務は、目に見えて先細りの一途をたどり、経営圧迫による危機感を抱いております。そのため私達は、「合特法」に基づいて転換業務(補償)獲得を市町村に要求していくものであります。

そのうえで、経営の安定を維持し、廃棄物の適正処理を全うし循環型の社会づくりの実現を図って参りたいと存じます。つきましては、何卒、下記の事項について特段の措置を講じられますよう切に要望するものであります。

## 記

- 1 下水道の整備により影響を受ける一般廃棄物処理業者等に対して、安定かつ継続する業務を保障する観点から「合特法」に基づく合理化事業計画の策定を行い、それを実行に移すことにより、転換業務(補償)の獲得またPFI事業による浄化槽市町村整備推進事業の維持管理については「合特法」の目的に配慮されるよう市町村において適切な対策が講じられますよう指導されたいこと。
- 2 浄化槽の維持管理に係る指定管理者制度の運用については、浄化槽の保守点検及び清掃を適切に実施し、浄化槽の正常な機能が確保されるよう、業者の選定等に関して、地方自治体に対して指導の徹底を図られたいこと。
- 3 政府は、平成22年6月「新成長戦略」を閣議決定し研究開発投資の充実を図ることとした。そこで、技術革新の可能性のある浄化槽の分野についても、浄化槽の最適な維持管理システムの構築や浄化槽汚泥の活用などの課題に着目し、イノベーション(技術革新)創出を導き出す研究開発を重点的に推進するための措置を講じられたいこと。
- 4 污水处理施設の整備(下水道、浄化槽、農漁集排、汚泥再生処理センター)については、地方公共団体の財政が逼迫していることから、人口減少を考慮した経済的、効率的な整備が推進されるよう指導されたいこと。
- 5 ディスポーザーの普及に伴い、水質保全の観点から、その排水処理システムの確立及び維持管理については速やかに法体系の整備を図られたいこと。
- 6 一般廃棄物処理計画に基づき、一般廃棄物の適正な処理が確保されている場合には、新たな業の許可はいたずらに過当競争等を招き、ひいては適正な処理が困難となるおそれが高いため、既存の適正規模の処理施設や体制を維持するよう地方自治体に対して指導の徹底を図られたいこと。

# 大会スローガン

1. 下水道の整備の進捗に伴う転換業務(補償)獲得

1. 不法・不当な新規許可の絶対反対と委託・  
許可制度の適正な運用

1. 生活排水対策に優れた浄化槽の適正な維持管理  
(保守点検・清掃・法定検査)の徹底

1. イノベーション(技術革新)による事業の安定的発展と  
循環型社会づくりを実現するため3R活動の一層の推進

1. 情報収集システムの構築と情報提供の充実強化

1. 組織の充実強化と次世代を担う人材の育成

1. 労働災害ゼロの徹底と福利厚生の実



# 大会宣言

我々一般廃棄物処理業者は、市町村の自治事務の代行者として、廃棄物処理事業が開始されたときから今日まで、適正な廃棄物処理を通じて、わが国の良質な水環境の確保及び公衆衛生の向上に寄与してきたところである。

しかし、その傍ら下水道の整備が進む中、業界を取り巻く厳しい経営環境は、年々その度合いを強めている。

そのため「合特法」の趣旨を踏まえた転換業務（補償）の獲得が、今や緊急の課題となっていることはいうまでもない。

我々がこの難局を乗り切るためには、積極的に英知を結集し自らの力で業界の経営基盤の安定を図っていくことが必要である。

今後は、絶え間ないイノベーション（技術革新）で、業界の未来は開かれるという信念のもと、創造性を備えた先進的なリサイクル等の技術開発に努めていくことが強く求められている。

その上で、企業の社会的責任（CSR）の視点から業界全体での思いきった意識改革に取り組み、新たな価値観を追求することが必要である。

また、今世紀は水と環境の世紀と言われ、地域の水循環を確保するため、水処理能力及び経済効率性の優れた合併処理浄化槽整備の一層の推進を図るべきである。

本大会は、「水から水へ 人から人へ 未来へつなぐ浄化槽」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を積極的に推進し、国・地方及び関係業界が協働して、循環型社会づくりを目指すものである。

さらに、私たちは組織拡大を図りながら強固な団結と協調のもと全国環境連の基本理念を実現することを誓うものである。

以上 宣言する。

平成22年10月21日

第 8 回 全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会  
全 国 大 会

# 講演

【時間】14時45分～17時00分 【場所】2階 千曲 / 同時放映 2階 梓



講演 I 14:45～15:30

演 題：「廃棄物・リサイクル対策行政について」

講 師： 環境省大臣官房  
廃棄物・リサイクル対策部長

伊藤 哲夫 氏

## 【講師のプロフィール】

昭和54年京都大学経済学部を卒業し環境庁入庁。環境庁企画調整局企画調整課環境保全活動推進室長、水質保全局企画課海洋環境・廃棄物対策室長、平成13年内閣官房内閣参事官、平成15年環境省大臣官房付（米国東西センターに派遣）自然環境局総務課長、大臣官房会計課長、平成18年財務省長崎税関長、平成20年大臣官房審議官を経て平成22年8月から大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長。



講演 II 15:45～17:00

演 題：「元気なまちづくりに向けた生活排水処理のあり方」

講 師： 財団法人 日本環境整備教育センター  
企画情報グループリーダー

国安 克彦 氏

## 【講師のプロフィール】

昭和54年から（財）日本環境整備教育センターで「小規模合併浄化槽の実用化に関する研究」、「生活排水系の高度化処理の実用化に関する研究」、「小型合併処理浄化槽の性能調査」、「地域特性に応じた排水処理計画の策定」など、し尿浄化槽や生活排水対策に関する数多くの調査研究に携わる。

また、し尿浄化槽性能評定委員（国土交通省）、技術士試験委員（文部科学省）、中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会浄化槽専門委員などの公職に就き生活排水対策の第一人者として活躍している。

次の懇親会は、3階の浅間で17時20分から開会します



# 懇親会

【時間】17時20分～19時20分 【場所】3階 浅間

## 式次第

- 一、開会の辞
- 一、主催者挨拶
- 一、来賓祝辞
- 一、来賓紹介
- 一、乾杯
- 一、次回開催担当県挨拶
- 一、中締め
- 一、閉会の辞



信州の県歌「信濃の国」を用いたダンスパフォーマンスや、スペシャルゲストのお笑い芸人「ニュースペーパー」も登場。楽しいお食事のひとつをお過ごしください。

社会風刺コント集団

### ザ・ニュースペーパー

国内外の政治、経済、事件、芸能…

様々な社会情勢を笑いにすべく結成したコントグループ



表現力豊かな役者が演じる様々な人物のコントに、笑いながらニュースの裏に隠された社会の本質が見えてくることも。特に歴代総理大臣の形態模写(心の中まで写す!?)を中心とした政治コントは他にまねの出来ない得意分野です。結成以来21年、ニュースを素材にひたすらライブにこだわるスタイルは変わりません。常に今を生きる社会風刺コント集団を間近でお楽しみください。



### ナチュラルムーブメント3・2・1

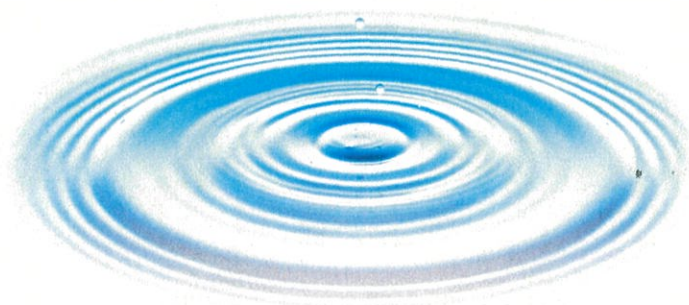
長野県の県歌「信濃の国」で  
明るく爽やかなダンスステージを



長野県長野市を中心として活動するダンスグループ、「ナチュラルムーブメント3・2・1」(スリー・ツー・ワン)。県内最大規模のダンスグループで、ジャズ・ヒップホップ・チア・よさこいなど…様々なダンスを踊っています。

大会ではチア3チームが出場、東京大会で2位、全国大会で5位・14位とそれぞれの成果があるほか、ヒップホップでも地方予選を突破して全国大会に出場するなどしています。

平成22年度  
第8回 **全国環境連全国大会**  
—— 水から水へ 人から人へ 未来へつなぐ浄化槽 ——



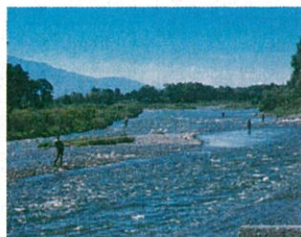
紅葉に彩られる犀川



寝覚の床(木曾川)



菜の花畑と千曲川



天竜川の鮎釣り風景

写真提供: (社) 信州・長野県観光協会

**長野県環境整備事業協同組合**

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉957-29

**TEL:0267-45-0768**

**FAX:0267-45-0763**



●大豆油インキを使用しています